

「人とのつながり」大切さ実感

ベトナム・ハノイで学生部セミナー

学生寄稿

学生部セミナー「ベトナムへ行く」が3月1日から10日まで阿藤正道学生部長ほか学生10人が参加して開催された。ハノイ市をはじめ陶器のまち「バッチャン村」、世界遺産のハロン湾などを見学したほか国際交流協定校のベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学を訪ね、学生たちと交流、ベトナム語学研修、ホームステイも体験し、学生たちは、密度の濃い10日間を過ごした。2学生から寄稿してもらった。



▲ ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学の学生たちと一緒にベトナムでの歓迎会で



▲ ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学のキャンパス



▲ バッチャン村で右は阿藤学生部長



▲ ベトナムの学生と一緒に。左端が佐藤さん

佐藤 翔 (法3)

今回の学生部セミナーで一番印象に残ったのは、ベトナム人の学生の向学心の高さでした。私たちが主に交流した



▲ ホームステイ先でくつろぐ…。左から2人目が谷地さん

谷地 加奈恵 (商4)

今回の研修で何よりも印象的だったことは、日本企業で働いてきたベトナム人の学生から、そのために必要なスキルを身につけていくというベトナムの学生が、生活しているのだと高さを感心した。学生たちは、とても熱心で、

年長者を大切に

有意義なホームステイ

道端ではパンを売っていたり、天秤棒やかごに果物や雑貨を積んで売ったりしている。必死に生活している人がいる半面、ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学の学生は、服装に気を遣っていてオシャレ。アルバイトをせずに勉強に専念できる環境が整っていると思えました。ベトナムの生活を間近で見、貧富の差を感じました。勉強したくても金銭的余裕がないため、大学進学、高校進学ができない学生がたくさんいます。それに比べて大学

自分の目標や夢に向かって努力をしていました。その姿を見て、自分がこゝろにも恵まれた環境で暮らしているのにもかわらぬ、やるべきことをしないで時間を無駄にして生活しているのだと高さを感心した。学生たちは、とても熱心で、

自分の家にお世話になりまの準備を手伝ったり、後片付けしたり、おばあさんのご飯をよそったりする姿をみて、当たり前のことかもしれませんが、「ベトナム人は年長者を敬い、家族をとても大切にしている」ということをおぼあさんとお母さん

は、現地でも食べた料理の準備を手伝ったり、後片付けしたり、おばあさんのご飯をよそったりする姿をみて、当たり前のことかもしれませんが、「ベトナム人は年長者を敬い、家族をとても大切にしている」ということをおぼあさんとお母さん

は、現地でも食べた料理の準備を手伝ったり、後片付けしたり、おばあさんのご飯をよそったりする姿をみて、当たり前のことかもしれませんが、「ベトナム人は年長者を敬い、家族をとても大切にしている」ということをおぼあさんとお母さん

向学心高い学生たち

日本の良さも気づいた

人よりも知っています。とても驚きました。そして、日本についてわからないことがあると、積極的に私たちに質問してききました。しかし、すべての質問に答えられたわけではなく、授業中に寝る人はいないそうです。日本の大学ほど細部にまで行き届いた設備が整っているとは、いえないまでも、授業に集中して一生懸命勉強している姿を見て、

ですが、授業中に寝る人はいないそうです。日本の大学ほど細部にまで行き届いた設備が整っているとは、いえないまでも、授業に集中して一生懸命勉強している姿を見て、

ですが、授業中に寝る人はいないそうです。日本の大学ほど細部にまで行き届いた設備が整っているとは、いえないまでも、授業に集中して一生懸命勉強している姿を見て、

ですが、授業中に寝る人はいないそうです。日本の大学ほど細部にまで行き届いた設備が整っているとは、いえないまでも、授業に集中して一生懸命勉強している姿を見て、